

知ってる？
こんな言葉

さくら、タンポポ、キンカンの木、卵、生まれた、大きくなった、あおむし、アゲハチョウ

今月は「卵から？」をテーマに活動してきました。春になると花や虫たちが目を覚まします。子どもたちの目線にはワクワクがいっぱい。園庭の花壇や木をみても「桜の葉っぱいっぱい」「ダンゴムシおる」と発見を楽しんでいます。キンカンの木にナミアゲハチョウも飛ぶようになり、キンカンの木に卵を見つけ出した子どもたち。「なんか卵ある」「これなんの卵？」「テントウムシ？」「カメムシ？」と興味を持ち始め、観察がはじまりました。

春探し



園庭や散歩で春をたくさん感じました。



卵みつけたよ



さてこの卵は何になる？ダンゴムシ？テントウムシ？

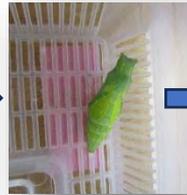
赤ちゃんうまれたよ



げこからあおむしになりました。



ちょうちょになったよ



青虫がようやく、サナギになりました。サナギになる前に下痢をします。「先生、緑の下痢してる」と子どもたちから伝えてくれるようになりました。

みて、触って、匂って、青虫は自分を守るために黄色い角を出し、ミカンの匂いで威嚇することも知りました。



14日間眠り、ナミアゲハチョウになって出てきました。現在5羽飛び立ちました。

キンカンの木から卵を見つけ、この卵は何になるのかを観察し、子どもたちは何になるのかドキドキしている姿を担任も共感し、楽しく飼育しています。アゲハチョウの飼育を通して、ちょうちょになるまでの成長過程や興味関心を持つことや、生き物に優しく接する気持ちも育ててほしいと思います。